

ゆっくりでもいい 継続していく事が大事！

自分たちのペースで PDCAサイクルを 回し続ける



～桜の丘 3年目のあゆみ～

社会福祉法人 桜園
特別養護老人ホーム 桜の丘

3年目に突入

・日常的に福祉用具は使用できている

リフト



シート



スタンディングリフト



身体の使い方



しかし・・・新型コロナのクラスター発生

感染対策
第一

・居室で過ごし、
臥床中心の生活

⇒離床の機会が
減る。

・ホールは 1 m
間隔をあけて座る

⇒ホールに離床
スペースが確保
できずベッド上
での生活。

職員体制の変化

・職員2名が産前産後休暇から
育児休業へ

・特定技能実習生2名が入職

・派遣職員の入れ替わり

・スタッフの退職

状況が変わる事で
負担や不安が増大



・感染が落ち着いたかと思うとまた職員や職員の家族にコロナ陽性者が発生。
施設の感染対策のレベルが下がらない…

・職員状況が変化した事で、日々のケアで精一杯の状態。



焦り。。。 →



でも、少しずつ出来る事から！！

ベッド上での介助でスライディングシートの活用



計画通りには進まないためできる事の実践

感染対策も考えシートの管理方法の見直し

腰痛調査や腰痛リスクに対する取り組みは継続

ノーフティングケア委員で話し合い、取り組みを発信

取り組み①

スライディングシート管理方法の見直し

居室の入り口に準備し4名で共用していた

共用を中止し必要な方のベッドサイドへ準備



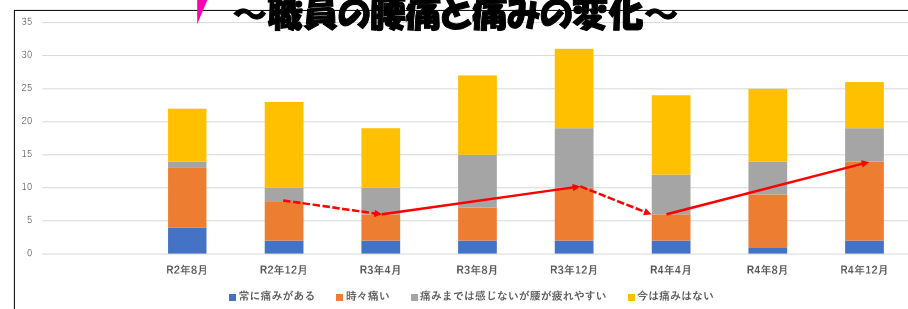
感染対策も



取り組み②

腰痛調査の継続

～職員の腰痛と痛みの変化～



★変化と現状: 常に痛みがある職員数には動きはないが、時々痛いや痛みまではないが疲れやすいというスタッフが徐々に増えてきている。また指や肩・肘などの関節の痛みがある職員が増えていることが分かった。

⇒ 移乗場面の観察や聞き取りを行った結果、腕で押し・引きしているのではないかと

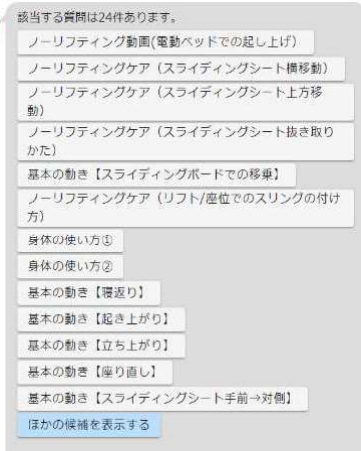
☆ 対策として: 体重移動の見直し、ストレッチの啓発、技術指導の計画を見直しなど、できることから実践。

取り組み③-1



教育マニュアルの見直し

- 技術動画のDVDや技術研修動画を細かく編集。(1テーマ 5分以内)
- 職員が視聴しやすいように#(ハッシュタグ)検索ができるように工夫
- 特定技能実習生にもわかるような資料を留学生と共に作成中



取り組み③-2

特定技能実習生や派遣スタッフへの技術指導



- 隙間時間を見つけながら直接技術指導
- リフト使用時に、職員の補助で入りながら実践を通して身に着ける
- 日本語の聞き取り、内容の理解の難しさがあったが、翻訳機能を使って伝達



時間をかけて少しずつ技術の習得ができた！抱えないのが当たり前！



取り組み③-3

- 大学生の卒論に協力
→アンケート調査を受けた事でノーリフティングケアの振り返りができ必要性を再確認した。
- 地域の短大で取り組みを発信した事により、地域の方より介護方法を教えて欲しいとの声を頂いた。



おいしいちゃんを車に乗せたいけど、どうしたらいいの??



卒論のアンケートにご協力下さい！

4年目に向かって



- 何のためにノーリフティングケアに取り組むのか？
→「何のため(目的)」を定着させ 共通認識の下、取り組みを継続させていく。
- 何があっても歩みを止めずに、少しずつ前に進む！
→コロナ禍、職場環境の変化があっても、ノーリフティングケア推進委員は未来に向かって進み続けます！

